|  |  |
| --- | --- |
|  | 小千谷旅する案内帳「千の谷の物語と雅色の郷　小千谷」 |

**芋坂/雪峠　激戦の地記念碑**

ガイド案内

* 1868年（慶応４年）、京都近郊の鳥羽伏見で同盟軍（東軍）と新政府軍（西軍）が衝突し、戊辰戦争の火蓋が切られました。京での戦いに勝利を収め、江戸城を無血開場させた新政府軍は、反抗勢力を制圧しようと各地へ軍隊を送りました。新潟県においても「北越戊辰戦争」と呼ばれる激しい戦いがありました。
* 雪峠は、旧善光寺街道の要衝で、旧中魚沼郡真人村芋坂と旧北魚沼郡山辺村池ケ原の中間にあります。1868年旧暦の閏４月26日（新暦６月16日）、その雪峠において、会津藩を中心とした東軍と西軍が激突し、北越戊辰戦争の火の手が上がりました。
* 西軍の兵力は東軍の数倍とも言われていますが、地の利を得て当初は東軍が優位でした。しかし、雪峠を迂回した西軍の別動隊に側面から砲撃されて総崩れとなり、退却を余儀なくされました。
* 翌４月27日、西軍は小千谷の町中へと進軍しました。
* 1995年（平成７年）に、小千谷市民有志による記念碑が池ヶ原の県道脇に立てられ、激戦を今に伝えています。

エピソード

* 昭和中頃、雪峠上の集落にあった古屋を取り壊したところ、茅葺き屋根の中から鉄弾丸が出てきたとのこです。西軍が雪峠の下から撃った弾丸がめりこんだものとされています。
* 国鉄が信濃川発電所建設工事を行なった際、昭和25年９月、雪峠の東隣り、坪野村の地下で落盤事故が発生し、40人余りが犠牲となりました。「雪峠戦の戦死者の霊の障り」と言われたそうです。「雪峠を通行するときは、霊の障りに気をつけろ」との伝承もありました。

関連サイトURL

　<http://www.pref.niigata.lg.jp/nagaoka_kikaku/1356891872085.html>

住所

小千谷市池ヶ原地内

メモ